

広報市民リポーターだより
第2回

期待される教育研究所

リポーター 本多カナ子 (餌釣)

今回は本多リポーターが、青少年教育における市教育研究所の役割について取材、また小笠原リポーターは、大館まちづくり協議会が今月運行する「二階建てバス」をレポートしました。

子供たちに関する暗いニュースが、毎日のようにテレビや新聞で報道されています。本当に、日々心の痛む思いです。子供たちを取り巻く社会環境の悪化に原因があるのではないのでしょうか。

市ではこの四月、教育研究所を開設したそうです。私は、この研究所が開設されたことで、子供たちへの教育が大きく変わるのではないかと考え、今回は「大館市教育研究所」をレポートすることにしました。

サン・アビリティーズ大館の一角に、お世辞にも広いとはいえない研究所がありました。中に入ると、町井所長を先頭にベテランの先生方が、山積みされた書類を相手に奮闘されて

いました。

お忙しの中、町井所長と福司副所長からお話を伺いました。

「この研究所は、市の教育の充実と振興を図るために設置されたものです。各種教育調査及び分析、学力向上対策等の指導教職員研修等を行いながら、市教育の要となるよう努めています。また、所報『教育おおだて』の発行を通して、先生同士のコミュニケーションづくりを図っていますし、教育相談を行いながら、市民の皆さんにも親しんでいただける研究所を目指しています」と福司副所長。『いかなる問題も辞さない』という研究所スタッフの姿勢が感じられました。



本多リポーター(左)

ました。

「青少年教育は、家庭、地域、学校が一体となって行わなければならないですね。そのため、ここでは、家庭からの相談に応じている他に、子供たちを教育する先生方の研修にも力を入れていきます。今、教育界は世代交替時に差し掛かっています。ですから、各種教職員研修の中でも新任研修・若手研修は、教育界の将来、ひいては日本の将来を左右するほど重要かつ不可欠なことなのです」と熱く語られた先生方からは、並々ならぬ決意の

この夏 大館は

ロンドンになる!?

リポーター 小笠原 渉 (長木川南)

2階建てバスに

乗ったことがありますか

今年の夏、市内を二階建てバスが走るとい話を耳にしたので、どうすれば乗れるのか調べてみました。

走らせるのは、「大館まちづくり協議会」という団体だとわかったので、会長の伊藤碩彦さんを訪ねお話を伺いました。

走らせるのは、八月十二日(土)から十八日(金)まで、ただし、十六日は大文字踊りのため休むそうです。

2階建てバスに乗る方法

乗車券は、市内のポスターを

ほどが伺われました。

青少年教育は、社会生活における原点です。私たち大人が、親が、履き違えない形の「愛」を送ることができたならば、またそれが学校教育と強く結び付くことができたといえれば、二十一世紀を担う子供たちは、身も心も健康に、大きく羽ばたくことができないのではないのでしょうか。

教育研究所の役割の大きさを実感し、その将来を大いに期待しながら帰路につきました。



貼つてある店で買い物をしたときの景品になっているそうです。

ただし、商店会によってやり方が少し違うので、ポスターのある店が大館商工会議所(☎433111)に聞いてほしいということでした。

ただ?(42円)で

乗る方法もあります!

十七日と十八日の午前九時半



小笠原リポーター(左)

と十時に秋北バスターミナルを出発する便に、百組(二百人)を招待してくれるそうです。住所・氏名・乗車希望日時(いづれか一回)を明記して、ハガキで申し込んでほしいということでした。

〒017 大館市御成町2丁目8-14 大館商工会議所内

「大館まちづくり協議会

2階建てバスご招待係」宛 五日締め切り(当日消印有効)ですので、まだ十分間に合います。希望者が多い時は、抽選にするそうです。

2階建てバスの走る街 大館

「今回の試みの結果によっては、将来二階建てバスが定期バスとして市内を走れるようがんばりたい。大館に行けば二階建てバスに乗れる。そんな街になれば、すばらしいなあ。」と伊藤会長は語ってくれました。二階建てバスに乗って、新しい大館を一緒に探しませんか。